

新看護部長に聞く

「質の高い看護サービスの提供」について

取材／読売新聞中部支社編集局 編集記者 片岡 太

名古屋記念病院 看護部長 井原加代子さん



名古屋記念病院(名古屋市天白区平針、藤田民夫院長)の看護部長に井原加代子さんがこの3月に就任し、患者さんに対する質の高い看護サービスの提供と、看護技術の習得など看護教育に意欲的に取り組んでいる。もともと名古屋記念病院の看護サービスの良さは評価されているが、さらにもう一つステップアップした看護師の育成を目標としている。井原看護部長に今取り組んでいることについて話を聞いた。



Q.病院の質を高め、維持するには医療現場の最前線にいる看護師の力は大きいと思います。

井原看護部長／地域に密着し、多くの診療科を持つ病院として看護師の果たす役割は大きいと思います。このため、当病院の看護師には、日頃から患者さんに対する看護は常に相手の立場に立って考え、行動するよう伝えています。

当病院の看護師は、このことを十分に自覚した上で、患者さんの看護に努めています。看護は「これで十分」ということはありません。患者さんのニーズに的確に対応するために看護の基本をしっかりと習得し、その上で、臨機応変に対応する能力が求められます。当病院の看護師は、看護の基本と臨機応変な対応を行いつつ、緊張感を持って医療現場で働いています。現状に満足することなく、さらに看護の質を高めたいと思っています。

Q.そうした患者さんのニーズに的確に対応するには、看護師の数が必要だと思いますが、看護師は足りていますか。

井原看護部長／患者さんに手厚い看護を提供するとともに、少しでもゆとりのある職場とするために看護師確保には最大限の努力をしています。

幸い、当病院では、入院患者さん7人に対して看護師1人という、いわゆる7対1の看護体制を維持するだけの看護師の数を確保しています。このため、入院患者さんに手厚く、そして、質の高い看護サービスを提供していかなければならないと思っています。

Q.このことが病院に対する評価にもつながっていますね。患者さん側から見た看護サービスの満足度は分かっていますか。

井原看護部長／患者さんから見た「良さ」「思いやり」などについては、患者満足度